

现代日语助词与助动词

王彦花 编著
尹学义 校阅

清华大学出版社

现代日语助词与助动词

王彦花 编著
尹学义 校阅

清华大学出版社

(京)新登字 158 号

内容提要

本书分为两章，第一章助词，第二章助动词。助词按六分法详分为格助词、副助词、提示助词、接续助词、并列助词和终助词。全书共收入 73 个常用助词和 31 个常用助动词，对它们的接续法、语法作用以及某些词之间的异同点都做了比较详细的论述，有的还附有相关的常用句型。在对助词与助动词逐个讲解的基础上，针对一些在学习过程中难以理解的内容做了对比性的讲解。

本书可供高校学生、出国留学人员、技术人员等各类日语学习者学习日语语法之用，亦可供有一定语法基础者作为提高性参考书。

图书在版编目 (CIP) 数据

现代日语助词与助动词 / 王彦花编著. —北京: 清华大学出版社, 1995.12

ISBN 7-302-01949-5

I. 现… II. 王… III. ①语法—助词②助动词—日语 IV. H364.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字 95 第 13978 号

出版者: 清华大学出版社 (北京清华大学校内, 邮编 100084)

印刷者: 清华大学印刷厂

发行者: 新华书店总店北京科技发行所

开 本: 787 × 1092 1/32 印张: 7.625 字数: 165 千字

版 次: 1996 年 9 月第 1 版 1996 年 9 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 7-302-01949-5/H·140

印 数: 0001-6000

定 价: 8.00 元

前 言

日语助词与助动词是日语语法中极为重要又较难掌握的两大部分。作者根据自己20余年的教学经验，结合本科生、研究生等各种不同教学对象在学习日语过程中所碰到的难点及容易出现的问题，就现代日语中常用的助词、助动词进行了由浅入深、详明易懂的讲解，并就一些难点从教与学两个不同的角度进行了对比性的论述。例如“は”与“が”的使用与区别，“は”与否定表现的关系，“まで、までに”与持续动作动词、瞬间动作动词的关系，表示假定条件的“と、ば、たら、なら”的比较以及表示“好像…”的“ようだ、らしい、そうだ”的比较等。

有些助词具有多种职能，因而出现了各词典或著述中日语助词分类不完全统一的现象。本书在编写时主要参考了《学研国語大辞典》（金田一春彦・池田弥三郎）、《大辞林》（松村明）、《日本語教育事典》（日本語教育学会編）、《日本文法大辞典》（松村明）、《広辞林》（三省堂）、《文語口語併論新国文法》（中野博雄・松隈義勇）、《基礎日本語2》（森田良行）、《教師用日本語教育ハンドブック②③》（国际交流基金）等资料，并将一些具有多种职能的助词尽量放在一处讲解其作用。

本书除对现代日语中常用的助词、助动词进行逐个讲解外，还对相关的内容进行了深入的补充说明，对一些难以掌握的内容进行了对比性的论述与归纳，为学习日语的朋友们提供了方便。

本书原稿用日文写成，得到日本著名语言学家、曾在北

京语言学院担任日本语研究中心日方主任、现任京都外国语大学日本语学科主任教授的佐治圭三先生的热忱指导，在此谨表示衷心的感谢。

编者水平所限，书中不妥之处难免，敬请读者不吝批评指正。

编 者

1996 年 7 月于清华园

目 录

第一章 助词	1
1.1 格助词	1
1.1.1 主格助词が	1
1.1.2 领格助词の	8
1.1.3 宾格助词を	13
1.1.4 补格助词で	15
1.1.5 补格助词に	18
1.1.6 补格助词へ	27
1.1.7 补格助词と	28
1.1.8 补格助词から	34
1.1.9 补格助词まで	38
1.1.10 补格助词より	42
1.2 副助词	44
1.2.1 ばかり	44
1.2.2 だけ	48
1.2.3 ほど	52
1.2.4 くらい(ぐらい)	55
1.2.5 まで	60
1.2.6 さえ	63
1.2.7 すら	65
1.2.8 か	65
1.2.9 どころか	69
1.2.10 など	70
1.2.11 ずつ	72
1.2.12 なり	73

1.2.13	のみ	75
1.2.14	きり	76
1.2.15	やら	77
1.3	提示助詞	78
1.3.1	は	79
1.3.2	も	83
1.3.3	こそ	86
1.3.4	しか	88
1.3.5	ほか	88
1.3.6	でも	89
1.3.7	だって	91
1.4	接続助詞	93
1.4.1	から、ので	94
1.4.2	もの	98
1.4.3	もので(もんで)	98
1.4.4	と	99
1.4.5	ば	103
1.4.6	たら	105
1.4.7	なら(ば)	109
1.4.8	ものなら(もんなら)	115
1.4.9	ては(では)	115
1.4.10	けれども、が	117
1.4.11	ものの	120
1.4.12	ものを	121
1.4.13	ところが	121
1.4.14	ところで	122

1.4.15	のに (に)	124
1.4.16	ても	126
1.4.17	とも (と)	127
1.4.18	て	128
1.4.19	して	132
1.4.20	ながら (つつ)	133
1.4.21	たり	135
1.4.22	なり	136
1.4.23	し	137
1.5	并列助词	138
1.5.1	と	138
1.5.2	や	139
1.5.3	とか	140
1.5.4	だの	141
1.6	终助词	142
1.6.1	か	142
1.6.2	かい	144
1.6.3	かしら	144
1.6.4	こと	145
1.6.5	さ	146
1.6.6	ぞ	147
1.6.7	ぜ	148
1.6.8	な (なあ)	148
1.6.9	ね (ねえ)	149
1.6.10	の	150
1.6.11	もの	151

1.6.12	ものか（もんか）	152
1.6.13	よ	152
1.6.14	や	153
1.6.15	わ	154
第二章 助动词		155
2.0.1	判断助动词だ、です、である	155
2.0.2	敬体助动词ます	162
2.0.3	被动助动词れる、られる	165
2.0.4	可能助动词れる、られる	176
2.0.5	自发助动词れる、られる	179
2.0.6	尊敬助动词れる、られる	180
2.0.7	使役助动词せる、させる附しめる	184
2.0.8	愿望助动词たい	191
2.0.9	愿望助动词たがる	195
2.0.10	传闻助动词そうだ	198
2.0.11	样态助动词そうだ	200
2.0.12	比况助动词ようだ	205
2.0.13	推量助动词らしい	209
2.0.14	比况助动词みたいだ	212
2.0.15	比况助动词ごとし	215
2.0.16	否定助动词ない、ぬ（ん）	217
2.0.17	否定助动词ず	223
2.0.18	推量助动词う、よう	224
2.0.19	推量助动词まい	228
2.0.20	完了助动词た	230
2.0.21	推量助动词べし	233

第一章 助词

助词是附属词之一，它在语法上起着极其重要的作用。助词不能独立使用，只能附在其它词后面表示词与词、句与句之间的关系或表达某种附加意义。助词没有词形变化。

根据日语助词的作用，可分为格助词、副助词、提示助词、接续助词、并列助词、终助词 6 种。

1.1 格助词

格助词接在体言或相当于体言的词的后面，表示该体言在句中所起的作用以及与其他词之间的关系。现代日语中的格助词有が、の、を、で、に、へ、と、から、まで、より等 10 个。

1.1.1 主格助词が

1. 表示主格（主语），一般用于以下场合。

(1) 表示人、物的存在或自然现象的发生。如：

○教室に学生がいます。 教室里有学生。

○机の上になりんごがあります。 桌子上有苹果。

○雨が降っています。 正在下雨。

○花が咲いています。 花在开放。

○月が出ています。 月亮出来了。

(2) 表示重点在主语（即强调主语）。如：

○これがわたしの本です。 这（就）是我的书。

○あの人が山田さんです。 那个人（就）是山田。

○この傘がわたしのです。 这把伞（就）是我的。

以上的例句都是强调主语，即重点在主语部分，例如“これがわたしの本です”这一句，是表示在很多书当中，别的都不是，“只有这本才是”这种语气。

(3) 疑问词、不定词作主语时。如：

○どちらがお兄さんですか。 哪一位是哥哥？

○どの人が山田さんですか。 哪个人是山田？

○どの国のことばがいちばん難しいですか。

哪个国家的语言最难？

○だれかが来ました。 有人来了。

疑问词是句子的求知部分，是疑问点之所在，因此它在句中总是重点，当疑问词作主语时用“が”表示。回答这类问句时，主语也用“が”，这可以和前面的(2)结合起来理解。例如在回答“どの人が山田さんですか”这一问句时，用(2)中的“あの人が山田さんです”这种形式，“が”起着强调重点部分的作用，也就是“山田”这个人的存在是已知的，未知的（重点）部分是“谁是”，迫切要知道的是“どの人”这一部分，所以回答时也要用“が”。

(4) 表示发现或惊讶。如：

○あつ、先生がいらっしゃった。 啊，老师来了。

○おや、山田さんがころげ落ちてしまった。 哎呀，山田滚落下去了。

○バスが来た。 汽车来了。

(5) 表示比较的结果。如：

○東京の方が大阪より人口が多い。

东京比大阪人口多。

○中国語の方が日本語より発音が難しい。

汉语比日语发音困难。

○日本では富士山がいちばん高い。

在日本富士山最高。

○雨の降りそうな日には、ぜったい山に登らない方が

いいです。 在好像要下雨的天气里，绝对不要爬山。

○医者に見てもらった方がいいです。

最好请医生看看。

(6) 表示从属句中的主语。如：

○あなたが行けば、わたしも行きます。 如果你去，我也去。

○田中さんが来たら、呼んでください。 田中来了请叫我一声。

○先生が教室にはいると、生徒たちはいっせいに立ち上がりました。 老师一进教室，学生们就一齐站了起来。

○わたしたちが乗るバスは八時に発車します。 我们乘坐的公共汽车八点开车。

○温度が変化したので、体積も変わりました。 因为温度变化了，所以体积也变了。

但是，当从（属）句中的主语与主句中的主语相一致时，要用“は”表示，此时的主语不仅关系到从（属）句中的谓语，也关系到主句的谓语。如：

○わたしは水泳に行くとき、いつも弟をつれていきま

す。我去游泳时，总是带着弟弟去。

○木村先生は本を読むとき、いつもめがねをかけます。木村老师看书时，总是戴眼镜。

(7) 表示主谓谓语句中谓语部分的主语。

主谓谓语句也叫复合谓语句，它的谓语是一个带有主语完整的句子，这个谓语句中的主语用“が”表示，与这个谓语句相对应的主语是整个句子的中心，也叫主题，通常用“は”表示。如：

○象は鼻が長い。象鼻子长。

○日本は山が多い。日本山多。

○わたしはかみの毛が黒い。我的头发黑。

○この家は窓が南むきです。这幢房子窗户朝南。

○ケリーさんは目の色が青くて、鼻が高くて、とても男らしい顔をしています。凯利蓝眼睛，高鼻梁，很具有男士风度。

但是，当谓语部分存在着对比或转折关系时，本来用“が”的地方可用“は”表示。如：

○象は鼻は長いが、目は小さいです。象鼻子长，但眼睛小。

○ケリーさんは背は高いが、体はやせています。凯利个子虽高，但身体很瘦。

(8) 表示故事中首次出场的主语。

听故事或读作品时，听众、读者最关心的是将会有什么人物出场，也就是“どんな人が登場しますか”的部分是未知的、是重点，所以用“が”表示。如：

○昔、ある山おくの村におじいさんとおばあさんがく

らしていました。很久以前，在深山的一个村子里住着一个老爷爷和一个老奶奶。

○むかし、北の国に、ひとりの牛かいがいました。很久以前，北方有个放牛的人。

○むかし、ある川に一ぴきのかっぱが住んでいました。很久以前，一条河里住着一个河童。

○むかし、むかし、あるところに、ちえの彦一というたいへんりこうな人がいました。很久很久以前，某地有个非常聪明的人，叫彦一。

2. 表示感觉的对象。

所谓感觉可分为主观感觉（由意志产生的愿望、好恶）和客观感觉（与意志无关的感觉）。表示感觉到的对象时用“が”。

(1) 表示主观感觉的对象（好恶的对象）。如：

○わたしは車がほしいです。我想要辆车。

○わたしは甘いものがきらいです。

我不喜欢吃甜食。

○切手を集めることが好きですか。你喜欢集邮吗？

○わたしはさくらの花が見たいです。我想看樱花。

○わたしは洋服が買いたいです。我想买西服。

在用“…が+动词连用形+たい”的形式(如(1)中的最后两句)表示愿望时，对象语一般用“が”表示。但是有时也用“を”，句子的意思没有什么差别。如：

○水が(を)飲みたい。我想喝水。

(2) 表示客观感觉的对象。如：

○いやなにおいがする。闻到一股难闻的气味。

○天氣がよければ、ここから富士山が見える。 如果天气好，从这儿可以看见富士山。

○雷の音が聞こえる。 听到雷声。

○めまいがする。 觉得头晕。

○はきげがする。 想呕吐。

○どこかで見たような気がする。 好像在哪儿见过。

在上面“…が…たい”的句型中，当对象语“…が”的部分紧挨在“动词连用形+たい”的部分前面时，可以将表示对象语的“が”换成“を”，但在下列含有“…たい”的句子中一般要用“を”而不用“が”。如：

①当对象语和“…たい”之间有其它成分时。如：

○わたしは仕事以外の時間をできるだけ多く日本語の勉強にあてたいです。 我想把业余时间尽量多地安排在日语学习上。

○生け花の上手なやり方を教えていただきたいです。
我想向您请教插花的好方法。

○この問題をもう一度説明していただきたいです。
我想请您再解释一遍这个问题。

②对象语是人物时。如：

○わたしは母をよろこばせたいです。
我想使母亲高兴。

○かれを医者にしたいですか。
你想把他培养成医生吗？

③表示从自己这方向外给出什么时。如：

○これをあなたに上げたいです。
我想把这个送给你。

○留学生に中国語を教えたいです。

我想教留学生汉语。

3. 表示可能（能够）的对象。如：

○日本語ができる。 会日语。

○英語が分かる。 懂英语。

○日本語で電話がかけられるようになりました。 能用日语打电话了。

○あなたは着物が着られますか。 你会穿和服吗？

○わたしはテレビがなおせます。 我会修电视机。

○わたしは泳ぐことができます。 我会游泳。

4. 表示所属

这是文语的表达方式，现在仍用于惯用说法或地名中，这时“が”的作用与“の”相同，但是不能换成“の”。如：

○わたしは正しいと思ったことはすべてわが身で実行したい。 我认为正确的事情都想亲自实践一下。

○わが国は石油資源の豊かな国です。 我国是个石油资源丰富的国家。

○わが家 自己家

○わが子 自己的孩子

○自由が丘 自由岗（地名）

○霞が関 霞关（地名）

○関が原の戦い 关原之战（“関が原”地名）

5. 直接接在用言的连体形后面，使之体言化，这是文语用法的残留。在现代日语中，一般要在用言连体形后接形式体言“の”之后才能接“が”。如：

○言わぬが花。 少说为佳。

○思うままに言うがいい。 最好是怎么想就怎么说。

○負けるが勝ち。 败中取胜。

6. 用在连体修饰语与“ため”“ゆえ”“ごとし”之间，起连体修饰作用，具有文语色彩。如：

○生きんがために働く。 为生存而工作。

○飛ぶがごとく走る。 奔跑如飞。

○資本家なるがゆえに，労働組合に反対する。

正因为是资本家，所以才反对工会。

7. 有时用“…めが”的形式表示责骂或蔑视。如：

○何を，このばかめが。 这个混蛋要干什么？

○この恩知らずめが。 这个忘恩负义的家伙。

1.1.2 领格助词の

1. 构成连体修饰语（定语），形成“体言＋の＋体言”的形式，根据上位和下位体言的关系可分为以下几种情况。

(1) 表示所属。如：

○わたしの本 我的书

○先生の家 老师的家

○友だちの写真 朋友的照片

○大学の図書館 大学的图书馆

(2) 表示存在的场所。如：

○京都の友人 （在）京都的朋友

○ふるさとのおじいさん （在）故乡的爷爷

○大阪の家 （在）大阪的家

(3) 表示性别。如：